



# 総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。  
スポーツくじについてはこちらから  
[スポーツくじ理念広報サイト「GROWING」]  
<https://www.toto-growing.com/>



## 特集★クラブ間交流を行っているクラブ

一般社団法人 **せき西部ふれあいSC** (岐阜県)

[http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM176\\_seki.PDF](http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM176_seki.PDF)

## 特別企画★都道府県スポーツ協会・連絡協議会・行政で実施している 総合型地域スポーツクラブ支援に関する取り組み

**福井県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会** (福井県)

[http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM176\\_fukui.PDF](http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM176_fukui.PDF)

## 連載★学校運動部活動の地域連携・地域クラブ活動への 移行に取り組むクラブ

NPO法人 **アビースポーツクラブ** (北海道)

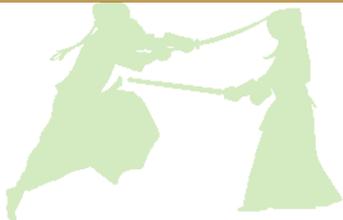
[http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM176\\_abi.PDF](http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM176_abi.PDF)

助成金情報 ▶▶▶ [詳細](#)

お知らせ ▶▶▶ [詳細](#)

バックナンバー ▶▶▶ [詳細](#)

全体版 ▶▶▶ [詳細](#)



## 特集

### ★クラブ間交流を行っているクラブ★

# 一般社団法人せき西部ふれあいSC 岐阜県関市

総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)がその地域に適合し定着・浸透するためには、総合型クラブ単体の取り組みだけでなく、すでに近隣で活動している他団体と相互扶助の関係を築くことが必要となります。

そこで今回は、総合型クラブ間で交流を行っているクラブについて紹介します。

## 1

## クラブ概要

### 約300名の会員が自分に合った活動で地域の交流を深める

一般社団法人せき西部ふれあいSCは、岐阜県関市を中心に活動している総合型クラブです。当クラブは、平成24(2012)年2月に設立し、平成31(2019)年には法人格を取得して一般社団法人となりました。

設立した当初から、高齢の方の交流の場の提供と、地域の子どもの遊び場の提供をしていくことで、地域の交流を深めようという狙いで活動を続けています。

現在、成人向けの活動で参加者が多い教室は「パワー&ストレッチ」と「体幹トレーニング」という名称の教室です。もともとは両教室とも「健康体操教室」という名称でしたが、参加者に若い人が増えてほしいと願って名称を変更しました。効果はそれなりに、いつも安定したメンバーで活動しています。

また、競技スポーツの指導もしており、小学生主体の陸上競技と小中学生向けのバドミントンのプログラムを展開しています。また、「スポーツはしたほうがいいけど競技スポーツはちょっと…」というお子さんや保護者向けに鉄棒、跳び箱、マット運動、ボール遊びなどを行い、身体を動かすことの楽しさを学べるプログラムも展開しています。

このように約300名の会員が、それぞれの教室で自分に合った活動をしており、それを取りまとめる事務局は7名の運営委員で運営されています。小さなクラブで、常勤で人を雇うことはできないため、全員がパートタイムで運営に携わっています。

## 2 近隣の総合型クラブと一緒に活動するイベント

### 参加体験会「アウトドアパーク」から 約1,000人来場の「スポーツマルシェ」に発展

令和2(2020)年11月に、我々の活動を地域の人たちにもっと知ってもらい、クラブを身近に感じてもらうためのイベント「アウトドアパーク」を開催しました。毎週活動している教室を、地域にある公園の芝生の広場に飛び出して行う参加体験会です。公園にはいろいろな人が来るため、イベントを知らない方にも多く参加いただくことができ、盛況のうちに終えることができました。実施準備中に、同じ関市の上之保ほほえみスポーツクラブさんが移動式のボルダリングボードを作製されたとの情報を聞き、ぜひ「アウトドアパーク」に来て出展してほしいと要請したところ、快諾いただきました。

翌年は、県下の他の2クラブ(一般社団法人スポーツリンク白川、特定非営利活動法人 Let'sたるい)にも参加いただいてモルックやノルディックウオークの体験会を行っていただきました。

令和4(2022)年からは、会場を関市の総合運動場に変更し、イベントの名称を「スポーツマルシェ」に改めました。関市内外の6つの総合型クラブと一緒に活動する場となり、小学生から高齢者まで約1,000人が来場するイベントとなりました。

#### スポーツマルシェ2022参加クラブ(実施内容)

- ・せきスポーツクラブ(玉入れ)
- ・NPO法人キウイスーツクラブ(ディスクゴルフ)
- ・上之保ほほえみスポーツクラブ(ボルダリング)
- ・中部学院大学スポーツカレッジ(体力測定会、スラックライン)
- ・NPO法人スポーツフラッグG(ミニテニス)
- ・せき西部ふれあいSC(バランスポール、ヨガ、グラウンドゴルフなど)
- ・緑ヶ丘剣道スポーツ少年団(剣道の道着・袴・防具の装着体験)※スポーツ少年団からの出展



移動式ボルダリングボード



陸上競技場の写真判定測定器を用いた  
50mタイム測定



芝生の上で剣道の袴と防具をつけて  
体験をする子どもたち

## 総合型クラブ事業強化補助金を主財源とし、 5枚つづりの体験チケットも販売

最初のアウトドアパークおよび名称変更後のスポーツマルシェの財源は、岐阜県総合型地域スポーツクラブ事業強化補助金を主財源としてイベントの骨格づくりを行いました。

また、令和5(2023)年から来場者には5枚つづり500円の体験チケットを購入いただき、自分が体験したいブースでチケットを渡して体験するようにしています。体験に必要なチケットの枚数は出展者が決めることができます。

イベント終了後に、経費などを精算し、チケット枚数に応じた金額を出展者に支払う形をとっています。

## 6つの総合型クラブが持ち寄ったの看板イベントづくり

近隣と言っても、各クラブとも生い立ちも、活動環境も抱える悩みも違います。そういった状況で、目的を一つにしてイベントを成功することができた理由に、各クラブとも長く活動しながら積極的な会員募集ができておらず、活動が硬直化していたという点があります。なかには、特に強みや看板教室がないクラブもありました。「みんなで看板教室、看板イベントを持ち寄ろう」という呼びかけにより各クラブとも活動が積極的になりました。

令和5(2023)年には地域のクラブが集う2回目のスポーツマルシェを行いました。どのクラブも前年より来場者に喜んでいただける内容と対応ができていたことが印象的でした。令和4(2022)年当時は、ほとんどの総合型クラブが外に出て一般の来場者と接するという経験をしたことがありませんでした。しかし2回目は、他のクラブの良いところをまねしたり、前年の反省を生かしたプログラムを充実させることができていたと感じます。



陸上競技場のトラック部分で行うミニテニスの体験ブース



スラックラインを楽しむ来場者

## 3

## クラブ間交流の効果

### 多くのクラブが交わることで効果は何倍にもなっていく

各クラブが集まってイベントを成功させるためには、幾度も会議や準備をする必要があります。そういった場を重ねることで、クラブ同士が互いに認め合い信頼する関係になっていくことを感じます。

スポーツマルシェ以外にも、各クラブが単独で行うイベントにお互いに参加するなどの交流は日常となってきました。

イベントの効果として、新規会員が入会したという事例も報告いただいています。また、看板イベントとして事業化していくクラブもあり、活動の活性化に幾分かは寄与できていると感じています。

柔軟な発想と対応によりクラブを運営することで、総合型クラブはさらに魅力的なクラブになっていくと思います。しかし、一つのクラブの力はわずかで、できることには限りがあります。ですが、多くのクラブが交わることで、その効果は何倍にもなっていくと感じています。

## 4

## 今後の展望

### 地域のスポーツ団体と状況を共有し、不安を解決していく活動をめざして

スポーツマルシェを通して他団体との連携の効果というものを体現しました。そうすると次は、どんな団体と連携するとどんな効果がありそうだとか、そのためにはこうしないといけないのかな？ などいろいろな思いをはせ巡らせています。

地域の総合型クラブがまとまった現在、次の連携先はスポーツ少年団と考えています。ほとんどのスポーツ少年団が少子化と子どものスポーツ離れにより存続に不安を抱えています。中学校から移行した部活動の受け皿となる地域クラブも同じでしょうし、近い将来には各競技団体も同様の状況になるのではないのでしょうか。

また、地域のスポーツ団体と状況を共有し、不安を解決していく活動を同時に行うことも大切です。地域のスポーツ推進を進めていくうえで、競技団体の活性化は不可欠です。種目ごとに競技団体と中学生地域クラブ、スポーツ少年団が縦につながり、総合型クラブが各競技団体間を横につなげていくという構図をイメージしています。

ただ現状では、総合型クラブはそのような動きを率先する立場にはありません。まずは、スポーツ協会と連携した活動づくりからスタートしたいと考えています。現在、令和7(2025)年のスポーツマルシェは、関市スポーツ協会と連携する方向で調整を進めています。

スポーツ団体の連携ができ、地域のスポーツ普及力が高まった先には、民間企業との連携により、高齢者の健康・体力の維持と雇用の課題に取り組んでいきたいと考えています。

## クラブプロフィール

**設立年月日** 平成24年2月19日（平成31年2月法人登記）

**所在地** 岐阜県関市山田32番地

**運営** 会員数：286名（令和6年8月現在）、予算規模600万円（令和6年度）

**特徴**

- ①会員の意向を優先した柔軟な対応を心がけています。
- ②自由な発想と活動で笑顔を提供しています。
- ③自分たちにはないものは、ほかから借りる（連携）。
- ④運営陣の高齢化も進んできています。

**連絡先** 〒501-3944 住所：岐阜県関市山田32番地  
HP：<https://www.sekiseibu-fureai-sc.com/>  
E-mail：sekiseibu.fureai.sc@gmail.com

## 特別企画

★都道府県スポーツ協会・連絡協議会・行政で実施している  
総合型地域スポーツクラブ支援に関する取り組み★

# 福井県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 福井県

総合型クラブが地域に根差し、誰からも愛されるクラブとなり自立・自律するに至るためには、当該地域の風土・文化・人口・経済事情等に適合し定着・浸透することと併せ、安定的に運営されることが求められます。

当該都道府県のスポーツ協会、都道府県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会(以下、「連絡協議会」)、行政等による支援の体制が整うことで、総合型クラブ自体が主体的・積極的に取り組むことができる環境になることが期待されます。

そこで今回は、都道府県スポーツ協会・連絡協議会・行政で実施している総合型クラブ支援に関する取り組みを紹介します。

## 1

## 協議会概要

### 福井県スポーツ協会内に移管。全クラブが基準を満たせるように取り組む

名称: 福井県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

所管: 公益財団法人福井県スポーツ協会

事務所: 〒918-8027 福井県福井市福町3-20 セーレン・ドリームアリーナ(福井県営体育館)内

令和3(2021)年度まで福井県広域スポーツセンター(福井運動公園事務所指導普及課/以下、「広域SC」)にて総合型地域スポーツクラブ福井県連絡協議会(当時)事務局を担っておりましたが、登録・認証制度の施行開始に伴い、令和4(2022)年度より福井県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会(以下、「県協議会」)の事務局を福井県スポーツ協会(以下、「県スポ協」)に移管しました。

本県では新制度の運用開始後に既存の全クラブが登録できるよう、運用開始時点で基準を満たしており総合型地域スポーツクラブ全国協議会に登録ができたクラブを「登録クラブ」とし、基準を満たせず登録ができなかったクラブは「準登録クラブ」として5年以内に基準を満たせるよう努めることを条件に県協議会に加盟できる体制を整えました。

また、広域SCが総合型クラブを対象に実施していた各種事業についても県協議会事務局の移管に併せて、令和4(2022)年度より県スポ協が引き継いで取り組んでいます。

現在、県協議会には26クラブが加盟し、そのうち24クラブが登録クラブとなっています。

## 2

## 取り組み内容

### 研修会を開催し、クラブの質的向上、行政との連携関係構築をアシスト

#### 取り組み1

#### 総合型地域スポーツクラブ強化支援事業

**【育成支援研修会】**…年に1回実施。県内の総合型クラブを対象に、クラブの質的向上を目的とした取り組みで、主に県外クラブより講師を招き、事例発表や課題解決に向けたプロセスなどを学ぶ機会になっており、毎回20～50名ほど参加(県外視察以外は無料)。

過去には県外クラブ視察を実施したこともあり、クラブ担当者からメールにて告知を行い、県内クラブ関係者と市町行政関係者に参加してもらいました。



年に1回実施している育成支援研修会

#### 1) 成果

県内外を問わずクラブ経営者による講演などは説得力があります。会員確保や後継者の発掘、クラブ経営のための予算確保など、どこのクラブでも抱えているような課題について先進クラブといえども同じ課題に悩み、解決のための努力をしているというような身近な内容の話に現場で活動されている方はとても共感しています。

具体的に課題等に対してどのような対策を立てているか先進クラブの取り組みを参考にしたり、今後取り組むべきことに意識を向けていくといった今後のクラブ方針に関わるような内容に参加者からは自身のクラブ状況と重ねて「とても参考になった」や「別の話も聞いてみたい」など前向きな感想をいただくようになったと思います。また、行政関係者の参加も増えてきており、以前より総合型クラブへの関心が高まってきていると感じます。

#### 2) 問題点

参加するクラブが偏っていることが大きな問題点だと感じています。本事業を含め、総合型クラブに関する事業はクラブ担当者とクラブアドバイザーが主な企画を立てています。しかし、どんなにこだわった企画や講師選定をしても参加してもらえないことには意味がありません。近年では研修会等の事業に参加するクラブは決まってきており、なかには年間を通して一度も参加しないクラブもあります。単に都合がつかないだけなのか、他人事のように考えているのかは不明ですが、参加しないクラブはまず、クラブ運営をどのようにしていくのか・何がしたいのかを考え、今後のビジョンを持ってもらう必要があると考えています。

**【市町連携支援研修会】**…市町行政との連携関係構築を目的とした取り組み。

主に各市町行政関係者に向けた内容を企画しており、総合型クラブとは何か？ から県内外での連携事例や総合型クラブの活用・連携について学ぶ機会となっています。

令和3(2021)年から年1回実施し、令和4(2022)年は6市町、令和5(2023)年は11市町、令和6(2024)年は8市町から20~40名の参加を得ています(参加は無料)。



市町連携支援研修会の様子

令和3(2021)年度から広域SC事業の一つとして「強化支援事業」を実施しており、現在では県スポ協が事業に取り組んでいますが、新たに予算化されたものではありません。県スポ協が本事業を実施するため、令和4(2022)年度からは補助金という形になりました。事業内容は変わらず、クラブの質的向上(母体強化)と行政連携の促進に取り組んでいます。

## 1) 成果

本研修会は令和3(2021)年度から開始されており、事業の歴史も浅いですが、着実に市町行政からの参加者数を伸ばしてきています。行政関係者は人事異動等もあり、担当者が変わればまた一から……という悪循環がありました。しかし、本事業を通して新担当者も総合型クラブについて学べるので、クラブの役割・行政の役割を理解して今後のクラブ間との関わりはどうあるべきなのかを考える機会をつくるだけでも、その後のクラブとの関係に良い影響があるように思います。

## 2) 問題点

本研修会では総合型クラブと行政の連携構築を目的とし、研修内容では参考例などを提示しながら、クラブの活用を促しています。子どもの運動離れや障がい者スポーツの普及など連携例はさまざま提示していますが、市町行政関係者が主に興味を示すのが中学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行についてであるということが問題だと思えます。

もちろん、総合型クラブが地域の受け皿として活躍することは喜ばしいことですが、総合型クラブの本来の意義を見失ってはいけないと思います。地域課題解決のため地域住民が主体となって運営する地域のコミュニティであり、その活動の一部に受け皿としての活動が組み込まれるという前提を市町行政関係者にも理解していただかないと、その活動が負担となりクラブ運営に大きく影響すると思います。

## クラブの認知度向上、新規獲得のための活動を支援

### 取り組み2

#### 総合型クラブ機能強化支援事業

本事業は登録・認証制度の登録クラブを対象にした補助事業となっており、クラブの認知度向上や新規会員獲得のための活動を支援しています。令和4(2022)年度から始まった補助事業だったため、当時は登録・認証制度の施行開始と重なりました。令和3(2021)年度からこの計画が進んでおり、次年度に備えて、本県からの登録クラブ数を増やすというねらいと、登録したクラブと登録しないクラブが県から同じ待遇を受けられるという事態を避けるため(登録メリットの創出のため)に、対象とするクラブは登録クラブに限定しました。

財源は県の補助金です。福井県スポーツ推進計画(令和3-6年)の中に総合型クラブの会員数が指標として組み込まれており、会員数の増加について県内の27クラブ(令和2年時点)にヒアリングをしたところ、「認知度の向上」が最も多い意見となったため、クラブが行う認知度向上や新規会員を募るイベントなどを補助する事業が令和4(2022)年度より開始されました。

令和6(2024)年度現在では認知度向上・新規会員獲得のほか、「中学生年代を対象にした事業」も補助対象として認められています。

クラブごとに計画を進めるのでさまざまな例があり、多くの場合は次のパターンが挙げられます。

- (1) クラブ独自のイベント(体験会やスポーツ大会など)に地域住民をはじめとする一般の参加を促し、のぼり旗や横断幕、チラシの配布などでクラブの広報活動を行う。
- (2) 商業施設やスポーツ施設など、多くの年齢層が利用する施設でスポーツ体験ブースを設置し、スポーツ体験を通してクラブ活動の紹介を行う。また、のぼり旗やチラシの配布などでクラブの広報活動を行う。

また、令和4(2022)年は、県内の25クラブ中、11クラブが補助事業を活用しました。令和5(2023)年は実施方法を変更しており、ブロック別(県協議会にて5ブロックに編成している)で実施し、5ブロック中4ブロックが活用しました。今年度は、令和4(2022)年度と同じくクラブ単位を補助することとしています。

補助金はクラブの取り組みを確認したのち、精算払いで対応しています。支出科目は、報償費・旅費・消耗品費・通信運搬費・印刷製本費・保険料・使用料および賃借料・手数料となっています。



総合型クラブ機能強化支援事業の予算を活用して各クラブが体験会や横断幕などを作製し認知度向上に取り組んでいる

## 1) 成果

本事業を実施したクラブがこの機会に新規教室を開講するなど、新規会員獲得につながっています。その他にも既存イベントを拡充し、より広く広報活動をしたり、参加型のイベントを実施するなど、総合型クラブの魅力を伝えるために各クラブが考えながら実施するという点でも、クラブの成長につながる事業になっていると思います。

補助事業については、事業報告時に事業の成果を聞き取っています。「得られた効果」については事業実施後の「経過(その後のクラブの取り組み)」が重要だと思います。したがって、経過から効果を感じるにはそのクラブが継続的な努力をしていることが最も重要であると考えます。補助事業頼りの効果では本事業の本質を見出せません。本事業は各クラブが向上心を持って日々活動していることを前提とし、そのサポートをすることが狙いなので、「事業で得られた効果」はクラブ自身が感じてもらえていればと思っています。

## 2) 問題点

本事業はあくまで補助事業なので、対象となるイベントの企画・運営は各クラブが行うことになります。事務局の機能が弱いクラブや、現場で動ける人員が少ないクラブでは、そもそもクラブイベントを計画できていないなどの問題があります。クラブ運営を見直し、改革していくためにもぜひ本事業を活用していただきたいところですが、なかには事務局の呼びかけにも反応しないクラブもあります。

# 4

## 今後の展望

### 中学校部活動、生涯スポーツ……地域スポーツの環境整備をめざす

当協議会は県スポ協に設置されており、生涯スポーツの普及という観点からも総合型クラブのさらなる活躍に期待しています。特に、中学校部活動をはじめとする地域スポーツの環境整備はこれから多くの場面で議論されていく分野だと思います。当協議会としては、県内の総合型クラブの育成・情報共有等を通して、県民の方にとって身近にあるスポーツクラブを支えることで地域のスポーツ環境整備に貢献していきたいと思っています。

福井県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 事務局 担当 新良 貴 優

## 協議会プロフィール

設立年	平成20(2008)年
所在地	公益財団法人福井県スポーツ協会 ※令和4年以降
運営	事務局職員:2名(担当、副担当)、予算規模:200,000円前後(クラブ会費、補助金等)
連絡先	〒918-8027 住所:福井県福井市福町3-20 TEL:0776-34-2719 FAX:0776-34-2742 HP: <a href="https://www.fukui-taikyo.or.jp/">https://www.fukui-taikyo.or.jp/</a> E-mail:s-shiraki@fukui-taikyo.or.jp

★本記事の読み上げ動画を作成しました!

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご活用ください!  
動画はこちら→[https://youtu.be/kCKrKuvd\\_Tc](https://youtu.be/kCKrKuvd_Tc)



過去の動画はこちら



## 連載

### ★学校運動部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に取り組むクラブ★

## NPO法人アビースポーツクラブ 北海道勇払郡安平町

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5(2023)年から令和7(2025)年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

### 1

## クラブ概要

### 震災を機に設立。生涯スポーツの実現に向けて活動中

平成30(2018)年9月6日に発生した北海道胆振東部地震により、北海道・安平町のスポーツ環境が激変しました。子どもたちが遊んだり練習したりしていた広場が自衛隊救助ヘリコプターの活動拠点になりました。町内の屋内体育施設が被災し、使用できなくなりました。

「このままでは子どもたちのやりたいことができなくなってしまう」

そう危機感を覚えた地域住民が平成31(2019)年1月に設立総会を行い、5月に法人格を取得し、「NPO法人アビースポーツクラブ」として活動を開始しました。

文部科学省が推進している「総合型地域スポーツクラブ」として、多種目・多世代・多志向の活動を展開し、生涯スポーツ社会の実現に向けて日々、活動しています。

現在は17団体が所属し、12種目の活動を展開中。単一種目を実施している地域の団体がアビースポーツクラブに所属し、各種目の活動を行うなかで、スポーツ保険の加入や各種問い合わせ対応など事務局の一部をアビースポーツクラブが一元管理しています。加えて、イベントの開催や送迎バスの運行など活動の支援も行っています。

種目は、野球やサッカーといったチームスポーツから一輪車やチアダンスなど個人種目まで多様な活動をしており、なかには北海道らしいアイスホッケーのクラブも所属しています。また、安平町は世界的な名馬を多数輩出する馬産地でもあり、地域の特徴を生かした乗馬クラブもあります。

会員数は、令和6(2024)年7月末時点で334名、幼児から大人まで幅広い年代の方が所属しており、5名の事務局体制で運営しています(内訳は、専属1名/クラブマネージャー、非常勤1名/事務局長、パート1名、地域おこし協力隊2名)。

事業(イベント)としては、子どもを対象にしたスポーツの楽しさを提供する「きっずすぽーつデイ」や、大人のスポーツ実施率向上と健康増進を目的とする「大人のスポーツDAY」、親子でスポーツを通じて絆を深める「親子スポーツDAY」などを定期的に行い、会員限定の交流イベント「アビーまつり」や地域の誰もが参加できる「アビーウインターフェス」なども開催しています。



クラブ設立5周年を記念して行ったイベント



多世代が楽しめるスポーツイベントを企画

## 2

## 部活動コーディネーターの企画で 連携・移行が前進

### 小さな町でも継続してスポーツや文化活動に取り組める環境をつくることを 目的に動きだした部活動の地域移行

人口減少や少子化により、既存の学校部活動はもとより、地域のスポーツ・文化活動が衰退する危機感をもっていました。スポーツを「する」だけでなく、それを「みる」人や「ささえる」人も同時に減少するからです。震災以降にそれらをより顕著に感じました。当クラブは、安平町教育委員会とさまざまな事業を共催するなど定期的にコミュニケーションをとっており、地域の課題も共有していました。そこに出てきたのが「部活動の地域移行」でした。まだ、何が正解かわからない状態でしたが、確実に言えるのは、何もしなければ地域のスポーツ・文化環境が衰退していくということ。それはつまり、「夢がないまち」とも表現できると思います。

そこで、令和2(2020)年「安平町部活動の在り方に関する検討委員会」を立ち上げ、学校管理職や顧問、教育委員会および当クラブスタッフなどが委員となり、議論を進めました。

さまざまな議論を通して安平町では、中学生年代に限らず、子どもから大人までのスポーツ・文化環境をつくることを目的に部活動の地域移行に取り組むこととなりました。また、当時の中学1年生が卒業するまで部活動を続けることができるよう令和7(2025)年度末までに地域移行を完了させるというゴール設定にしました。さらに、土日のみの地域移行では本質的な解決にはならないため、平日も含めた地域移行に取り組むこととしました。

## 安平町行政の地域おこし協力隊を効果的に登用。 5つのクラブの地域移行化が実現した

令和5(2023)年度から、当クラブが部活動の地域移行を含めた業務を受託し、地域のスポーツ・文化環境の体制整備を実施しています。また、同年5月より安平町行政が行っている地域おこし協力隊を登用し活動を推進、アビススポーツクラブに配置しました。

さらに、生徒や保護者をはじめとした地域住民に対しての説明会を各中学校区にて実施。町と共催で「これからの安平町の文化・スポーツ環境をつくるワークショップ」を開催しました。北海道教育委員会「部活動の在り方検討支援アドバイザー」の磯田大治氏による基調講演や地域おこし協力隊による安平町の取り組みの説明および参加者も含めたグループディスカッションを小中学生や地域住民約30名とともに実施しました。

このような取り組みの成果として、地域移行の取り組み初年度となる令和6(2024)年1月には2つの部活動が地域クラブ化し、翌年度の令和6(2024)年4月にはさらに3つの部活動が地域クラブ化しました。

これまで地域クラブ化した部活動はすべて運動部でしたが、運動部と同様に文化部も地域移行するため、令和6(2024)年度より文化芸術活動にたけた人材2名を地域おこし協力隊として安平町行政が登用し、連携しながら活動を推進しています。

令和5(2023)年度に着任した地域おこし協力隊員が令和6(2024)年1月、不慮の事故で帰らぬ人となりました。きれいごとではなく、彼がいなければ今の地域移行の形はあり得ませんでした。これまでの取り組みをベースに新しいメンバーが遺志を継ぎ、より良い地域の文化・スポーツ環境をつくるため日々活動しています。

### 【具体的な取り組みの内容】

#### 1<地域クラブ化支援>

部活動の地域移行の目的や意義を広く住民の方々に知ってもらうために、町の広報誌に掲載したり、北海道安平町にて放送されているエリア放送「あびらチャンネル」にて特別番組として地域移行の取り組みや実際に地域クラブの様子を放送したりしています。また、部活動に所属する生徒や保護者、顧問の先生などの関係者に対して教育委員会と協力して、複数回にわたる説明会を実施し、不明点や不安の解消に取り組んでいます。また、実際に地域クラブを設立する際に規程づくりや体験会の実施など地域クラブ化に向けた活動全般の支援をしています。

#### 2<地域クラブ運営支援>

地域クラブ設立後は、名簿の管理や保険の加入はアビススポーツクラブで一元管理することで、各地域クラブの事務負担を軽減しています。また、中学校体育連盟などへの大会登録については、各地域クラブの事務局をアビーがサポートすることによりスムーズな事務局運営を実現しています。

#### 3<送迎サポート>

スポーツ振興くじ助成金を活用してマイクロバスを購入し、平日の活動の送迎をサポートしています。約10名程度が毎回利用し、多いときには20名以上が活動場所まで送迎バスを利用しています。土日など通常のバス運行がない日は、地域クラブへバスを貸し出しており、遠征や合宿などにも活用されています。

## 【指導者、財源、活動場所の確保方法】

### 1<指導者>

スポーツ少年団の指導者や地域クラブの指導を希望する教員が兼職兼業で行っているケースが多いですが、各地域クラブの指導者や保護者が主体的に指導者を募っています。また、指導者資格取得等にかかる費用を当クラブが負担することで、「指導者の量」の確保を支援しています。また、コーチングに関する指導者研修を主催し、競技にかかわらず「指導者の質」の確保にも取り組んでいます。



「指導者ダブル・ゴール・コーチング研修会」の様子



「これからの安平町の文化・スポーツ環境をつくるワークショップ」を開催

### 2<財源>

国の実証事業の補助金だけでなく、継続性を担保するために受益者負担による会費や個人・企業からの寄付を活用しています。また、北海道教育委員会の「Do-START」事業の一環として、大塚製薬などと連携し「地域貢献型自動販売機」を設置し、売上の一部が地域のスポーツ環境整備に活用されるような仕組みづくりを行っています。

### 3<活動場所の確保>

学校施設や地域の体育施設を利用しています。安平町立早来学園は地域開放を前提に設計されているため、予約状況がスマートフォンで確認でき、予約も可能なため利便性が高いです。また、各地域クラブ同士の風通しが良いため互いに譲り合い、協力して活動場所を確保しています。

## 【連携している関係団体について】

アビススポーツクラブのスタッフが、安平町の体育協会のスポーツ推進委員に所属しており、つど情報共有しています。また、文化協会の理事会等にも参加することで地域の課題やニーズの発見につなげています。

## 【取り組みを進めてきたなかで得たこと、苦労したことなど】

前提として、この取り組みが正解かどうかはまだわかりません。ただ、「より良い文化・スポーツ環境をつくるには今何ができるか」を問い続けた結果が今の取り組みです。苦労したことは、指導者や財源の確保、バスの購入と運転手の確保など挙げればキリがありません。一方で得られたことは、世代を超えた地域の文化・スポーツ活動の継続性と「アビススポーツクラブならなんとかしてくれるんじゃないか？」という当クラブの信用だと思えます。

### 3 送迎のサポートで取り組みの効果を実感

送迎サポートを行うことで、地域移行により最寄りの学校以外での活動の際の移動問題が解消できたことは非常に大きいと思っています。令和6(2024)年度は試験的に無償で運行していますが、活動を継続するためには財源が必要となります。そのため、今後は、受益者負担と町の委託費、寄付等で賄っていくことをめざします。利用者の中学生からは「学校から活動場所までバスが出るからスポーツを続けることができうれしい」という声もあります。移動は、北海道特有問題ですべてのニーズを満たすのは難しいものの、今後もさまざまな工夫で課題を解決していきたいと考えています。



送迎サポートで移動問題を解消

### 4 「夢が実現できる場所を創造する」 地域で必要とされる存在をめざして

私たちは生涯スポーツとマルチスポーツを推奨し、世代を超えたスポーツ・芸術文化活動を推進していきます。「する」人だけでなく「みる」や「ささえる」人も増やすことで、小さい町でも活動を継続できます。パブリックビューイングの開催や町内で行われるクラブ活動の情報発信をすることで、「みる」文化を醸成できると考えています。このようにスポーツや芸術文化活動をさまざまな視点で捉えて限られたリソースの中で活動を発展させていくことが重要です。



「パリオリンピックパブリックビューイング」ではスポーツを「みる」文化を醸成

人口減少や少子高齢化により既存の仕組みではうまくいかないことが、地域の課題として現れます。部活動の地域移行もそのうちの一つです。これらの課題はいずれやってきます。課題が問題になってから取り組むのではなく、今できることから始めれば少し変わった未来を迎えることができると信じています。

私たちは、「夢が実現できる場を創造する」というミッションを掲げています。そのためにはいかなることにも主体的に誠意をもって取り組むことが重要だと感じています。これからも地域で必要とされ、ちょっぴり自慢できるクラブづくりに取り組んでいきます。

## クラブプロフィール

**設立年月日** 平成31年1月15日(令和元年5月28日法人登記)

**所在地** 北海道勇払郡安平町早来栄町133番地70

**運営** 会員数:334名(令和6年8月現在)、予算規模:約27,000,000円(令和6年度)

**特徴** 多種目の活動展開

乗馬やアイスホッケーなど地域特性を生かした活動

マルチスポーツの推進

スポーツ少年団との連携

行政との連携

地域との連携

企業との連携

**連絡先** 〒059-1505住所:北海道勇払郡安平町早来栄町133番地70

TEL:080 4294 3634 FAX:なし

HP:<https://ab-sports-club.studio.site/>

E-mail: info-abira@ab-sports-club.com

## 助成金情報

### YMFSスポーツチャレンジ助成2025年度(第19期生)

[実施団体] (公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団

スポーツに関連する幅広い分野で世界の舞台へ大きくはばたく情熱的なチャレンジを応援。グローバルに活躍することをめざし、高い目標を掲げて取り組んでいるアスリートや指導者、研究者の活動(体験分野、研究分野)を支援・助成します。

[申込期間]

2024年8月19日(月)～9月30日(月)正午にて入力締切。申請フォームにて、「電子申請」を行います。詳しくは以下のページでご確認ください。

<https://www.ymfs.jp/assist/>

### ヨネックススポーツ振興財団2025年度助成金

[実施団体] (公財)ヨネックススポーツ振興財団

ジュニアスポーツ振興助成事業(全スポーツ競技)すべてのスポーツ競技において、ジュニアスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、または自ら行い、かつ当該団体としての活動を実施している団体を対象とします。

※2024年度より、ジュニアスポーツ振興助成事業に「中学校部活動の地域移行(連携)推進助成」が追加となりました。

[申込期間]

[前期・通年]

対象期間:2025年4月1日～9月30日および2025年度の年間を通した事業

Web申請開始:2024年9月13日10:00

一次締め切り:2024年11月5日15:00

最終締め切り:2024年12月5日15:00

審査結果通知:2025年3月上旬(予定)

[後期]

対象期間:2025年10月1日～2026年3月31日の事業

Web申請開始:2025年4月1日10:00

一次締め切り:2025年5月10日15:00

最終締め切り:2025年6月10日15:00

審査結果通知:2025年9月上旬(予定)

詳しくは、以下のホームページをご確認ください。

[https://www.yonexsports-f.or.jp/grant\\_application/](https://www.yonexsports-f.or.jp/grant_application/)

## お知らせ

### 日本スポーツ協会情報

#### 令和6年度生涯スポーツ功労者が決定しました！

国による生涯スポーツ功労者表彰は、地域または職域におけるスポーツの健全な普及および発展に貢献し、地域におけるスポーツ振興に顕著な成果を挙げたスポーツ関係者を表彰するものです。

今年度は生涯スポーツ功労者159名、生涯スポーツ優良団体105団体の表彰が決定しました。総合型地域スポーツクラブ育成指導者として、日本スポーツ協会から9名を文部科学省へ推薦し「生涯スポーツ功労者」として決定されました。

生涯スポーツ功労者一覧については下記URLを参照ください。

[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/houdou/31/09/1420919\\_00004.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/houdou/31/09/1420919_00004.htm)

#### ご注意ください！

#### 日本スポーツ協会および国民スポーツ大会の名をかたって ライブ配信を装うフィッシング詐欺が現れています

インターネット動画共有サイト「YouTube」やSNS「X(旧Twitter)」上において、当協会の名称およびロゴ、「国スポ」「国民スポーツ大会」「国体」「国民体育大会」等の名称を無断で用いて、大会映像のライブ配信を装うフィッシング詐欺がたびたび出現しています。

これらのコンテンツや投稿においては、ライブ配信を視聴するための条件として、外部サイトへの接続が求められ、さらに会員登録と称して、氏名やメールアドレス、クレジットカード番号情報の入力などが求められます。

しかし、これらはフィッシング(個人情報などを奪う詐欺)サイトであることが確認されています。

当協会が主催する大会でのライブ配信については、下記のとおり予定しているところですが、下記にない配信については、当協会とは一切関係なく、フィッシング詐欺の可能性があります。

上記あるいは類似の不審なサイトやSNS投稿、覚えのないアドレスからのメールなどには十分ご注意ください。

#### ▼当協会が主催する大会におけるライブ中継および映像配信について

##### 1) 日本スポーツマスターズ2024長崎大会

大会のライブ中継および映像配信は、予定しておりません。

##### 2) 第78回国民スポーツ大会本大会(SAGA2024) <会期前開催競技含む>

・JSPOTV 国スポチャンネル <https://japangamestv.japan-sports.or.jp/>

(無料)のみで、ライブ中継および映像配信を行います。

・YouTubeでは配信いたしません。

##### 3) 第78回国民スポーツ大会ブロック大会および同都道府県予選会

当協会による各大会のライブ中継および映像配信は、予定しておりません。

## 第78回国民スポーツ大会本大会(SAGA2024)の大会記念品の販売を開始

佐賀県で開催される、第78回国民スポーツ大会本大会(SAGA2024)の記念品の販売が、大会スポンサーであるミズノ株式会社の公式オンラインショップ(ミズノ公式オンライン)にて開始されました。

大会の記念にぜひお買い求めください。

- 一部現地での販売(※)も予定しておりますが、販売会場、数量に限りがございますため事前のご購入をおすすめいたします。
- オンラインショップ上も在庫には限りがございますのであらかじめご了承ください。
- お申し込み日時によって会期前の競技の開始に商品の到着が間に合わない場合もございます。

※現地での記念品販売は、

- ・ソフトテニス<9/21(土)~24(火) 唐津市:松浦河畔公園庭球場>
  - ・開会式<10/5(土) 佐賀市:SAGAサンライズパークおもてなし広場>
  - ・陸上<10/11(金)~15(火) 佐賀市:SAGAサンライズパークSAGAスタジアム>
- の3会場で予定しております。

### ▼販売ページはこちら

[SAGA2024国スポ | 大会記念品 | ミズノ公式オンライン \(mizuno.com\)](#)

## 日本スポーツマスターズ2024長崎大会の大会記念品を販売開始

9、10月に長崎県で開催される、日本スポーツマスターズ2024長崎大会の大会記念品について、ミズノ株式会社(大会オフィシャルスポンサー)の公式オンラインショップ(ミズノ公式オンライン)での販売が開始されました。大会の記念にぜひお買い求めください。

(オンラインショップのみでの販売となり、会場での販売はございません。また、在庫には限りがございますのであらかじめご了承ください)

### ▼販売ページはこちら

[日本スポーツマスターズ | 大会記念品 | ミズノ公式オンライン \(mizuno.com\)](#)

### ▼日本スポーツマスターズの概要はこちら

[日本スポーツマスターズ - JSPO \(japan-sports.or.jp\)](#)